



『夕暮れクリスタルスターライト』

Vol.12

水月晶みづきあきら & 星野美樹ほしのみき

■オープニング

美樹 「えげつない鬼姑の緩急つけた嫌がらせの如き寒暖の差で、幼気幼気なお体を壊している方が多数なこの季節、皆さん、いかがお過ごしでしょうかっ！」

晶 「……なによ、そのどこぞの定番ドラマみたいなのは……」

美樹 「ちなみに、鬼姑のところを晶に書き換えても概ね通じ……」

SE 打撃音

美樹 「べぐっ!？」

晶 「……今回も初っ端から、やる気満々のようね、美樹……」

美樹 「あ、晶も殺る気満々だよねえ……」

晶 「『や』の言葉が普通とは別の字が当てられた気がするけど……?」

美樹 「き、気のせいだよ、気のせいっ。そ、それでは改めまして、お久しぶりです〜星野美樹です!」

晶 「……まあ、いいわ。これが終わったたら折檻だから。皆さん、こんにちは水月晶です」

美樹 「さ、さらっと怖いこと言わないでよ、晶……」

晶 「アンタのそういう態度を直さない限り、あたしはいくらでも怖くなってあげるわよ、どこまでもね……フ、フフフフ……」

美樹 「怖い、怖いから晶……いくら作者さんが本編書かなくてストレスが溜まっているからって……」

晶 「余計なことは言わなくてよろしい! さっさと始めなさいよ」

美樹 「ううう……あ、晶がいつにもまして怖い……。それでは、秋も深まった首都圏からお送りする――」

晶 「晶と」

美樹 「美樹の『夕暮れクリスタルスターライト』! 今回も全力全開で元気よく行ってみましょう!!」

■配布物

美樹 「今回の配布物は『文庫本作成法』のCD-ROM版になります〜」

晶 「……またこれ出すの……」

美樹 「正直、一番うちのサークルで人気がある本だったからね」

晶 「一応確認しとくけど、小説サークルよね? 旅人のザツクは」

美樹 「小説制作サークルとしてはさほど外していないけど、本筋じゃないことは確かだよねえ〜」

晶 「DL site 様にも置いて頂いているけど、何で今回CD-ROM版を作ることにしたのよ?」

美樹 「やっぱり現物を直接手で配布したい、けれども紙版は作るのが大変すぎる……というわけで折衷案的にデータ版配布……といった感じみたいだね」

晶 「何というか手抜きね、ぶっちゃけ」

美樹 「いやいや、それが全然手抜きにならなかったらいいよ〜」

晶 「単にデータをCD-Rに書き込むだけじゃないの? ドライブが書き込みミス連発していたウン年前ならいざ知らず、今何を苦労することが?」

美樹 「CD-ROM版にはおまけを入れることにしていたんだけど、このおまけの作成が大変な事に……しかも、現在進行形で……」

晶 「いやまあ、現在進行形なのはいつも通りだから一々突っ込まないけど、おまけって、あのシルフィードさんの壁紙と……」

美樹 「それと『夢の残照 第一話』の配布で実際に作ったCDデータ一式、そして新しいバージョンの『威沙』……」

晶 「まさかデータ作成中に大バグ見つかって修正作業とか……」

美樹 「凄いつ! 晶つてもしかしなくてもエスパ!？」

晶 「……なんでお約束をこれっぽっちも外さないのかしら、あの作者は……」

美樹 「見つかったのが滅多に使わない機能とか、見た目では気が付きにくい場所での問題ばかりだったしねえ〜」

晶 「そういうバグばかりを自分で踏むんだから、悪運は強いから良いのかもしれないけどね」

美樹 「それは慰めになっていないよ、晶」

晶 「ところで、結局バグは直せたの?」

美樹 「再現性は高いバグだったからその点は大丈夫だよ。なお、今サイトに掲載しているバージョンも同じ問題が存在していますので、こちらも近日中に対応した物をリリースすることですので、少々お待ちください〜」

■近状

美樹 「二週間前くらいまで原稿やっていたみたいだよ」

晶 「なによ、その二週間前って……」

美樹 「今週はCD-ROM版『文庫本作成法』の作業していたから、その前の週は久しぶりにネト

ゲー世界に……」

晶 「……よくまあ、飽きずに……」

美樹 「三ヶ月ほど休止していたんだけど、使用期限が近いログインチケットが残っていたからその消費するためログインしていたみたいだね」

晶 「で？ 肝心の原稿の方はどうなのよ？」

美樹 「基本的に『夢の残照』第二巻の作業中で、内訳は第四話の作者さんの修正は終わり、第五話はチェックが完了であとは修正だけ、外伝1は読み直しだけ完了……といったところかな？」

晶 「また第一巻みたいに大修正とかしているんじゃないでしょうね？」

美樹 「それは無いみたいだよ、『直すところが少なく助かる』って言ってたし」

晶 「さっさと終わらせて、最終回シリーズを始めて欲しいんだけど、本当に」

美樹 「大丈夫だよ、晶。その願いはたぶん叶うから」

晶 「どうのことよ？」

美樹 「絵師であるHiroshiさんから、『残照の続編書かないなら、挿絵は描かない』と最終通告が……」

晶 「……マジ……？」

美樹 「マジ、マジ、大マジ。さすがに作者さんも書かないわけに行かなくなつて、第三巻の本文作業が終わり次第、最終回シリーズを始めるって」

晶 「そこまでしてやつとかい、あの作者は……」

美樹 「というわけで、遅くとも来年末には『夢の残照』の正統な続編が目見え出来るように頑張るとのことですので、期待しないで待つてやってくださいね」

晶 「……いやそう言っている時点で、既に諦めているじゃないの、アンタ」

■ 次回予定

晶 「さて今回は数日後ですが、『第十三回 文学フリマ』に参加します」

美樹 「そして、年末大晦日には『コミックマーケット81』に参加が決まっていますよ」

☆配置情報

・第十三回 文学フリマ(11月3日)

R16b 旅人のザック

・Comic Market 81 土曜日(12月31日)

東地区『ヤ』ー34b 旅人のザック

晶 「コミケ、今回は落ちなかったのね……」

美樹 「冬コミには『夢の残照』第二巻を出したい』って言っていたけど、どうなのかなあ……」

晶 「絵師のHiroshiさんが忙しすぎだしね。暇人な作者とは違って」

美樹 「作者さんも職場が変わって忙しくなりそうだから、ちよつと先が見えない状態だつて」
晶 「まあ、もつと忙しくてちゃんと本を出している人なんていくらでも居るんだから、もう少し頑張るといふことを覚えて欲しいわね」

美樹 「『他人とまったく同じ事が出来るなら、その他人が要らない』とか言いそうだけどね、作者さんは」

晶 「ああ、ホント言いそうね、そういうすぐに世間様を敵に回すことを……」

■ エンディング

美樹 「さあ〜って、良い感じで世間様を敵に回したところで『夕暮れクリスタルスターライト』そろそろお別れの時間がやってきました」

晶 「……アンタみたいな存在そのものが社会の敵みたいなヤツに作者も言われ続けたくないでしょうけど……」

美樹 「ひ、酷いよ、晶。いくら、む……つと、本当にメの時間になってしまいましたので、今回はこのあたりでっ！」

晶 「待て、美樹。アンタ今何を言おうとした？」

美樹 「それでは皆さん、来週『文化の日』に行われる『文学フリマ』、もしくは冬のコミケでお会いしましょう！」

晶 「……それでは、また……」

美樹 「まったねえ〜♪」

文責:風野旅人 Mail:tabito@din.or.jp

Twitter:http://twitter.com/tabito_kazeno

旅人のザック(http://www.din.or.jp/~tabito)

※このペーパーは威沙にて作成しました。

■ PS.

SE カランカランと金属が転がるような音

晶 「……さてと……これから始まるは『お仕置きタイム』……よー！」

美樹 「へっ!? え、ええええええっ!? ちよ、ちよつ、ま、待つて晶っ! お、鬼と金棒の組み合わせ……ペギやあつ!!」